

子どもの力を育てる野菜の栽培キット及びWebによる情報発信

a2200917 高桑 和子 / a2200901 阿部 春世

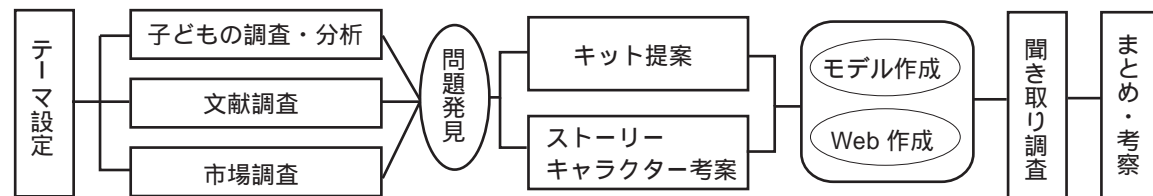
研究の概要

実際に保育所等を訪問し、子どもの行動や特徴から問題点を抽出する。その改善案として、子どもたちの発見力と伝達力の向上を図る野菜の栽培キットとWebによる情報発信を提案する。

研究の背景・目的

最近では家庭菜園が広がっていることに着目し、市場を調査してみたところ、子ども向けの栽培キットがあまりないことが分かった。そこで、人格の土台が決まってくる4～6歳児を対象に設定し、子どもたちの野菜作りの実態を知るために保育所に赴き調査した。私たちが訪問した保育所では、本格的に野菜の栽培を行っており、食育に力を入れていた。野菜を身近で育てることにより、子どもたちの発見力と伝達力が伸びるということを保育士がおっしゃっていた。しかし、その力の伸び具合は子どもの性格によってまちまちであり、野菜の変化に敏感な子もいれば、園内で育てている野菜に関心がない子もいるということを知った。そこで、一人ひとりの力を伸ばすことができるような、家庭で育てる野菜の栽培キット及び子どもの野菜栽培へのモチベーションを持続させるよう、Webによる情報発信を行うことを本研究の目的とする。そのために、子どもの行動や性格について分析・調査を行った。なお、ここで挙げる栽培キットは、野菜の育ち方とプランターの水はけ、置き場所等を考慮しており、キャラクター又はそのストーリーに関連付けたデザインにした。

研究の流れ



キットの内容



梱包イメージ図(写真左)



グッズ一覧(写真右)

グッズ一覧表

- | | |
|-----------------|---|
| プランターカバー | 説明書 |
| プランター | 水やり表(裏は各野菜の説明書) |
| 受け皿 | 各野菜の説明書(選んだ種によって変わる) |
| じょうろ | 種(ミニトマト・ミニキャロット・二十日大根・芽キャベツのいずれかがキット内に入る) |
| スコップ | 石(約200g) |
| シート | 土(約1.25kg) |
| 液肥キャップ(4キャラクター) | 肥料(約500g) |
| 液肥(2つ) | パッケージ |
| 軍手(1組) | |

キット説明

子どもの興味を持続させるための配慮として、栽培キット全体をストーリー性のあるデザインとした。切り株型プランターカバーを中心に、きのこ型スコップとじょうろなど「てんてんとやさいのもり」のストーリーに合致させた。機能性を考慮し、プランターカバーでは水のあげすぎに注意させるために受け皿が覗けるようにドアを付けた。汚れ防止のための軍手も用意しており、それには葉っぱの形の滑り止めをつけて全体のイメージと絡ませている。また、シートには各キャラクターの家を配置することで、プランターの周囲が物語の一部となるようにした。液肥のおしり部分にはキャラクターのイラストを載せた液肥カバーを取りつけることができ、カバーとして使用しない場合は指人形として遊ぶこともできる。家族との関わりも持たせるため、親子で一緒に読める説明書や、水をあげたら家族の方に印を付けてもらう水やり表も付けることとした。キットに含まれるもののほとんどを、プランター内に、そのまま展示可能な形で収納・梱包することで、店舗でのディスプレイを容易にするとともに、ゴミの減量化にも配慮した。(写真A)

「てんてんとやさいのもり」では、子どもに好感が持たれるようにキャラクターを使用している。どれも野菜に関連した虫や種・きのこをモチーフとしたデザインである。(右図)
主人公のてんてんは子ども達に野菜を育てることを教えてくれるための、いわばナビゲーター的存在として活躍する。



web サイト



サイトトップ



リンクページの例

ここでは野菜の育て方の説明書よりも、さらに細かい説明を記載している支援型のwebサイトを作成した。これは、説明書だけでは情報量が少ないためである。キット内のグッズ同様、キャラクターを盛り込みながら子どもでも見やすいデザインになるよう、工夫をした。上部にある家のシルエットのアイコンは大きい項目で振り分け、リンクさせてあり、そこから細かいリンクが下部に表示される。表示してあるページはキャラクターや色を使い分けて見やすくした。小さいお子さんを持つ母親に説明したところ、「そういうサイトがあると子どもも喜び」という意見を頂いたため、サイトを作る意義はあると思う。

検証・考察

グッズを外部の人に評価してもらうために、平成23年1月21日に若松第三幼稚園に模型を持参し、親子を対象とした聞き取り調査を行った。ここでは模型を見ての、印象や値段の予想を聞くと共に、子どもにはスコップやじょうろを実際に握ってもらい、その感触を確かめてもらった。

幼稚園内に来ていた子どもは3～6歳児であり、スコップとじょうろは殆どの児童が握れたが、私たちが用意した子ども用の軍手は、3歳児には大きすぎることが分かった。

親と保育士の意見としてはプランターカバーに対する意見が多かった。今のプランターではカバー内部の空気の流れが悪いことや、遊ぶ要素をもっと増やして欲しい(遊具的な要素の追加ということ)、炎天下ではカバーの茶色が色あせるのではないかとということ等、知育的な観点とキットを長期間使用する目線からの指摘を受けた。グッズとしては、液肥の危険性をもっとアピールする方法や、外に出した際に雨天時のカバーやシートの下が汚れる恐れがあり勿体無いという意見もあった。

キット全体の値段の予想を立ててもらったところ、大体2000円位なら買うと言ってくれた母親が多かった。コストは3000円以内には収めているが、やはり自分の子どものために出す金額としては3000円では高めなようである。(図1)

3人の母親からは、「もうひとまわり小さかったらぜひ置きたい」という話も出た。サイズのバリエーションを増やすべきだと感じた。

この検証で、私たちが思っている以上に母親たちの、子どもの知育への関心は高いということが分かった。また、子どもは遊びの中から新しい発見をして、学び取っていく。私たちは、本研究を通して、子どもたちが自発的にものごとを行えるような環境(親、もの、場所)が必要だということを認識した。



写真: 幼稚園で検証中

場所	置ける・・・4人
	小さいと置ける・・・3人
	置けない・・・2人
値段	1000・・・2人
	2000・・・7人
	2000-3000・・・1人
	3500・・・1人
	(平均2000円)

図1 キットのアンケート結果(対象:幼稚園児の母親11人)



写真: スコップ使用中



写真: 軍手使用中